

「釜石の奇跡」を見て

2011 年度
〇〇〇小6年1組
2012/02/18
編集 尾形正宏

先日の「理科の自習」時間に1月17日にNHK「クローズアップ現代」で放映された「釜石の奇跡」という番組を視聴してもらいました。

そのとき、子どもたちにお願ひしてプリントに書いてもらった内容を紹介します。

東日本大震災についてあなたが知っていることを3つ書きなさい。

地震, そして津波

- ・津波がきて多くの家や人が流された。
- ・津波の高さが高かった。
- ・大きな津波が来て、たてものやいろいろなものが流され、人ものみ込まれた。
- ・多くの人が亡くなり、行方不明者も出た。
- ・地震などで多くの犠牲者が出た。
- ・特に東北地方が被害を受けた。
- ・岩手、宮城、福島が大きな被害を受けた。
- ・東北地方の太平洋側に大打撃を与えた。
- ・地震の揺れがすごかった。最大震度7。
- ・日本の観測史上最大の震災。M9.0
- ・世界規模の大地震。
- ・地面や道路が地割れや土砂災害、断層などが起こった。
- ・余震が続いている。

さらに原発も

- ・原発の問題も発生した。
- ・福島の原発がこわれた。
- ・放射能が飛び散った。
- ・原発がこわれて、放射能が散らばった。
- ・原発事故によって、周囲数十kmが立ち入り禁止になった。

今でも終わっていない

- ・家を失い仮設住宅で暮らしている人がいる。
- ・今でもたいへんな思いをしている人がいる。
- ・今でも被害の爪痕が残っている。

地震発生当時、釜石小学校の全校児童は 184 人でした。この小学生には一人の犠牲者も出ませんでした。それはどうしてだと思いますか？

あなたの予想

- ・津波が来た時、高い場所に逃げた
- ・先生とかの素早い判断で、逃げ切れることができた
- ・津波が予想より高かったけど、自分で判断したから
- ・みんなで高いところにのぼったから
- ・訓練をしていたから。訓練を活かしたから
- ・逃げる決断が早かった
- ・すぐに高いところに逃げたから
- ・みんなバラバラに行動した
- ・みんなパニックにならずにおちついてひなんすることができたから。自分の命を第一に考えていたから
- ・避難場所よりもさらに遠くへ逃げたから
- ・そこには津波が来なかったから

ビデオを視聴する(約26分)

地震発生当時、釜石小学校の子どもたちのほとんどが、すでに帰宅していたか、帰宅途中でした。先生たちは、「いくらかの犠牲が出るのは仕方がない」と諦めていました。

しかし、帰宅していた釜石小学校の子どもたちは、なんと自分の判断で高台に逃げ、全員無事だったのです。そこには教師の指導も大人の指導もありませんでした。まさに自分だけで判断し、そして逃げ延びたのです。中には「そんなたいしたことないよ」といって逃げようとしなかったお年寄りを説得して高台まで一緒に連れて逃げた子もいます。

子どもたちがこういう素晴らしい判断ができたのは、それまでの学校の避難訓練をしっかりと受けていたからです。

この番組の中では、学校から「行政のハザードマップを信じるな！とまで教えていた」ということも出ていました。文字通り「最悪を考えろ！」と教えられていたのです。

そして東北地方に伝わる「津波てんでんこ」と言う考え方があったからこそ、助かったのです。



この番組を視聴した後で、以下の質問に答えてもらいました。

「津波てんでんこ」というのはどういうことですか？

- 一人一人それぞれに逃げるという意味
- 一人で逃げる
- 一人一人の判断で、津波から逃げるためにしたこと
- 自分の命は自分で守るため、一人一人バラバラに津波から逃げるということ
- てんでんバラバラににげる
- てんでんこのようににげる。すぐになげる
- 自分の命は自分で守る
- 自分で責任を持って逃げなさいという意味

一般に「津波てんでんこ」というのは、上の子どもたちがとらえたように、「一人一人が責任を持って自分一人でも逃げることだ」

と思われています。しかし、この番組の解説者は

「家族がそれぞれの場所であらゆる手段で逃げるためには、家族間の信頼が必要なのだ」

とも述べていました。

つまり「津波てんでんこ」とは、

- 家族のことを気にせず、自分で逃げる
- お互いに信頼しあい、自分だけで助かる
- きずなを信頼できる
- 信頼関係を持ちながらきずなを断ち切る。そして守り合う
- 家族の絆が被害を大きくしているのだから、絆を断ち切って逃げる
- 自分で責任を持って逃げる。お互いに信頼するという意味

つまり「一人一人がてんでに逃げる」ことができるということは「私の家族は、みんなしっかり逃げているはずだ」という家族に対する絶対的信頼がないと成立しないのです。

もし、家族同士で「〇〇は逃げているかもしれない…」という心配が少しでもあると、子どもが親をあてにしてその帰りを待っていたり、親が「子どもが待っているかもしれない」と家まで迎えに行ったりして、結果的に逃げ遅れてしまうこととなります。「勝手にてんでに逃げる」ことができるのは「私の家族も避難していると信じているから」可能になることなのです。

これはすごいことです。そして今回の小学生たちは、みんな自分でしっかり逃げたのです。親を待っていたりすることなく、自分で判断できたのです。しかもハザードマップさえを信じないで、最悪の事態に備えることができたのです。それが、教育の成果であることに私はビックリしたし、教育の大切さを改めて感じたのでした。

**釜石小学校 184 名の子どもたちは、どうして助かることができたのですか。
番組を振り返ってまとめなさい。**

「どうして助かったのでしょうか」
という問いに対して一番多かったのが、
「自分で判断したから」
というものでした。

大人の判断を待たずに自分で判断できたことが
自分の命を救った一番の方法だったのです。



釜石を襲う津波(番組HPより)

- 自分の命は自分で守り，すばやく高い場所に逃げたので助かった人もいるし，どこか不自由な人も子どもに助けてもらい逃げれたという人もいるということがわかりました。自分も友だち，家族，他の人も高い場所に逃げるので助かることができたのだと思います。
- 自分の力だけで「地震がきたら津波が来る」という判断をし，津波が来る前に高台の方へにげたから，みんな助かることができました。
- 釜石小学校 184 名の子どもたちがどうして助かったのかというのは，大人顔負けの判断力と根性があったからだです。1，2 回地震が来ただけで津波がくるという判断を持ち，高台や屋上に逃げた。そして，他の人もおいていかないという根性があったから，みんな逃げるのでできたと思います。
- 自分たちが今なにをしなくちゃならないかをわかっていたから。
- 友だちを助けたり，自分を守ったりして高いところのにげたから助かったんだと思います。自分の判断で家族を助けていたんだと思います。家族や友だちのことを考える前に，自分のことを考えることが大切なんだと思いました。

※

それでは，なぜこの子供達は＜自分で判断できるほどの判断力＞を持ち合わせていたのでしょうか。この学校の子供達だけが優秀で特別だったわけではありません。番組では，「子どもの的確な判断力」が，学校や家庭での「日頃の真剣な訓練」と「生きて使える学習」で育まれたものであったことが指摘されていました。

- 釜石小学校の子どもたちは，津波のこわさをビデオを見てそれをずっと頭に覚えていたから，津波がきてもにげることができた。一人一人の判断力がよかったから助かったと思います。子どもが大人を助けたところがすごいと思いました。

- ちゃんと学校で訓練し、親からも「すぐに逃げろ」と言われていたからだと思います。そして自分達が自分で判断したからだと思います。



釜石小の子どもたち(番組HPより)

- 小学校でやっていた訓練を生かして自分たちですぐににげれた。小学校のみんなは祖父母をとっても大切に思っていたから、一緒に逃げられたんだと思う。とてもこわいことだけど、いい経験になったんだと思う。
- 自分たちで判断して安全な場所にひなんして自分の命を守ったから。それから、学校で津波のことをよく学習して、にげることや津波のおそろしさをよく知っていたから。自分の命だけではなく家族や友達の命も守っていたので、すごいと思いました。
- 学校での防災訓練などの練習で学んだことを実際に出せたから。
- じゅぎょうでならい、実際にやって覚えたから。
- 自分たちだけでにげたから。学校で教わったことを思い出したから。自分は今どこににげれば助かるのかを考えたから。
- 学校で教わったことをちゃんと守り、それぞれが素早く逃げたから。またきちんと判断できたから。
- 今まで親や学校から教わったことをいかして人を助け、助け合ったり、友達の絆を大切にして、みんなで生きのびようと思ひ、がんばったから。
- できる限りのことをする。自然に対しての姿勢。子どもたちが津波がくるのを考えていたし、しっかりと判断していたから。学校で習っていたことも使っていた...
- 学校の訓練や（それによる一人一人の）判断力で生き延びることができた。釜石小学校のみんなは、本番のようにしていた訓練やみんなの判断力のおかげでたくさんの方が助かった。釜石小学校のみんなは、お母さんやお父さん、お母さんやお父さんは釜石小学校のみんなを信頼したから、すぐに逃げられたと思う。
- 子どもたちは、自分の命を守りぬくこと、ベストをつくすことを一人一人ができたからである。それと仲間や家族とのきずなも、今回の災害で大切なことだった。

- 自分のできることをして、家族や友達との信頼やきずながあったから。
- 自分の命を第一に考えていたからだと思います。ふつうお母さん、お父さん、祖母祖父のことを心配するけど、釜石小学校 184 名の人たちは、自分の命をゆうせんしてひなんしていたからだと思う。やはり助け合いが必要だと思います。それに家族を心配するっていうことも信頼するという意味だと私は思います。
- 4 年前から津波のことを先生たちが子供達に VTR など見せていて子供達が地震や津波の怖さを知りにげることができたのだと思います。あと、釜石小学校の子供達は自分の判断で自分や友達、それに親までをも助けていたのですばらしいと思いました。

信頼や絆があったからこそ、とっさのときにはその家族の絆を断ち切り、まずは自分だけでも避難するという姿勢こそが、この子供達を救ったのでした。

番組の最後に、子供達が「この体験は自分の子どもにも語っていかなければならない」という強い意志も示していました。

「想定外」（何度も何度も、本当に何度もマスコミで聞いた!!）という言葉で逃げる大人社会に対して、釜石小学校の子どもたちがとった行動はとても大切な示唆を示していると思います。

この子どもたちは<想定外>の津波が来たにもかかわらず、しっかり逃げ延びたのですから。

参考資料:クローズアップ現代のサイトより引用

子どもが語る大震災（2） ぼくらは大津波を生きた

釜石市沿岸部にある釜石小学校。3月11日、年度末の短縮授業で児童はいつもより早く下校し、家でゲームをしたり、友だちと遊んだりするなど、大人の管理下を離れて自由な時間を過ごしていた。大津波にのまれる町を目撃した親や教師たちは、「子どもたちはもうだめ・・・」と覚悟を決めた。しかし子どもたちは大人の予想をはるかにこえる行動をとっていた。防災学習の知識をいかし自力で安全な場所へ避難。184人の児童は一人の犠牲も出ることなく全員無事だった。さらに、子どもたちは小さな兄弟の手を引いたり、体の不自由な友人をおぶったり、大人に避難をよびかけるなど多くの命を救っていた。番組では当日の避難行動のシミュレーション動画や証言などをもとに、子どもたちがどう巨大津波を生き抜いたのか分析。あの日の体験を生きる力に変え、未来へ向かって進もうとする子どもたちの姿を伝える。(以上、同サイトより)



※以下のサイトで番組の一部(約 17 分)を見ることができます(2012/02/18 現在)

http://cgi4.nhk.or.jp/gendai/kiroku/detail.cgi?content_id=3142